

血液検査の種類

血液検査サービス

献血していただいた方全員を対象に、血液型のほかに、次の生化学的検査を行って、結果の通知を希望される方へお知らせしています。

生化学的検査の項目

ALT (GPT)

肝臓に最も多く含まれる酵素。肝炎などで肝細胞が障害を受けたときに数値が上昇します。

AST (GOT)

心筋や肝臓に多く含まれる酵素。心筋梗塞や急性肝炎、アルコール性肝障害などで数値が上昇します。

γ-GTP

肝、胆道、膵、腎などに多く含まれる酵素。閉塞性黄疸、肝炎、アルコール性肝障害などで数値が上昇します。

総たんぱく

病気で栄養が悪くなったり、肝臓や腎臓が悪くなると数値に異常が出ます。

アルブミン

血清たんぱくの大半はアルブミンです。総たんぱくとほとんど同じ意味があります。

A/G比

アルブミンとグロブリンの割合が適正であるかどうかの指標です。

総たんぱく、アルブミン、A/G比は一連のものとして判断されます。

コレステロール

中高年者には最も気になる数値ですが、これが高いと動脈硬化や高血圧が促進されるといわれています。脂肪の多い食事をとり過ぎていたり、肥満、腎臓、膵臓、胆管、胆道などが悪いときにも数値が高くなります。

献血時のこれらの検査によって、病気の早期発見ができることにもなります。検査の結果が異常な場合には、早めに医師の診察を受けるようにしましょう。さらに、400ml献血や成分献血をした人には、次の血球計数検査を行って、結果を知らせていきます。

貧血について

皮膚や粘膜がそう白になる病気で、赤血球の数が減る、ヘモグロビンの量が減少する、あるいは赤血球の容積が少なくなるなどのために起こるものです。

白血病について

血液のがんで白血球の数が1マイクロリットルの中に数万個または数十万個と増える病気です。反対に、白血球が2000個とか1000個とかに減ってしまう場合もあります。いずれも生命にかかわる重大な病気です。

